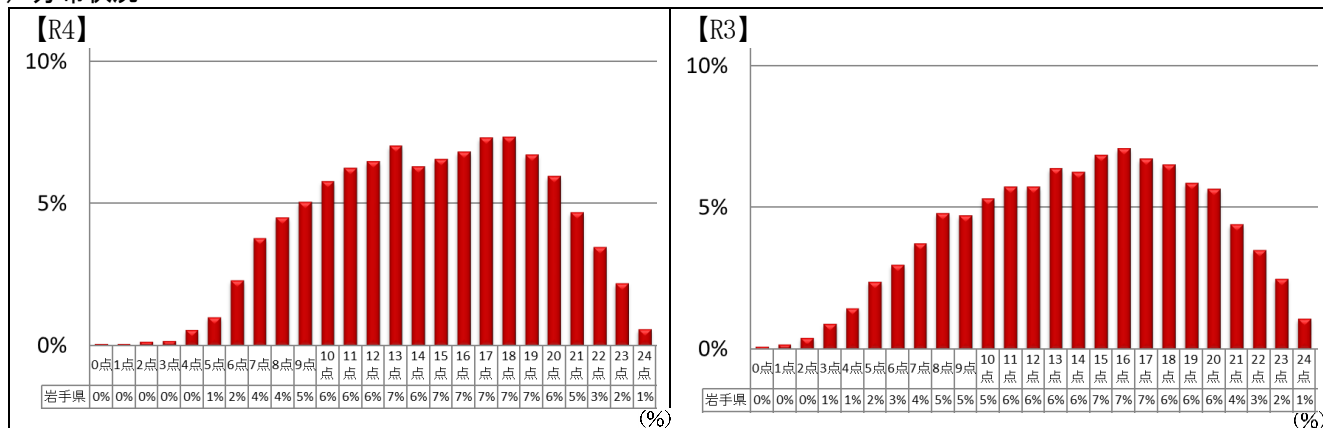


授業改善の手引 中学校第1学年英語

1 調査結果

(1) 分布状況



○ 問題数は昨年度同様24問。正答数の最頻値は18問、平均正答率は60.4%です。R3年度と比較して、山が左側に移動していることから、正答数13問以下の層に属する生徒へのきめ細かな指導が必要です。

(2) 1年生 CAN-DO リストの項目別正答率

1年生到達目標 (CAN-DO LIST)		正答率	
聞くこと	① 簡単な質問や指示等を聞いて、内容を理解することができる。	87.6	
	② はっきりと話されれば、短い会話などを聞いて、必要な情報を聞き取ることができる。	87.0	
	③ はっきりと話されれば、日常的な話題(学校行事、自分の好きなこと)について、概要を捉えることができる。	96.9	
読むこと	① 日常生活の身近な単語や簡単な文を理解することができる。	61.5	
	② 日常的な情報収集(広告やパンフレット、予定表等)について簡単な英語で書かれた文を読んで、必要な情報を読み取ることができる。	59.9	
	③ まとまった内容(手紙や紹介文等)の英文を読んで、大まかな概要を読み取ることができる。	35.3	
	④ 登場人物の心情や意味・内容が表現されるように音読することができる。	—	
話すこと	やり取り	① 自分の事や身近な話題について即興で簡単な問答することができる。	—
	② 事実や自分の考えを整理し、簡単な語句を用いて、問答することができる。	—	
発表	① 自分自身や身近な人々について、考えや気持ち、事実などを、相手意識をもって簡単な英語で伝えることができる。	—	
	② 関心のある事柄について、キーワードやメモを頼りに即興で話すことができる。	—	
書くこと	① 英語の正しい語順や書き方の決まりに合わせて、正しく文を書くことができる。	39.1	
	② 自分の考えや気持ちなどを整理し、文と文のつながりに注意して、簡単な英文で書くことができる。(例)自分自身、家族・友達等の身近な人、お気に入りのものについてなど。	63.9	
	③ 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりに注意して、簡単な英文で書くことができる。(例)自分自身、家族・友達等の身近な人、お気に入りのものについてなど。	46.7	

(3) 結果概要

- はっきりと話された英文から必要な情報を聞きとること、概要を捉えることは概ね良好です。(大問2、3、4)
- 日常的な話題を読み、その内容を理解できる傾向にあります。(大問9、10)
- 場面に応じた英文を正確に書くことは昨年より改善しているものの、正答率は依然低い状況です。(大問15)
- 100語前後のまとまった英文(説明原稿、ウェブサイト)の内容理解に課題が見られます。読み取る内容に応じた指導(必要な情報の読み取り方、概要や要点の捉え方)が必要です。(大問11、12)

2 主な小問について

○ **まとまった内容の英文(説明原稿)を読んで、大まかな概要を捉えることができる。**

ア 問題の概要

11 ダニエル先生が、ニュージーランド (New Zealand) について、スライドを使って説明しています。下の説明原稿の内容と順序が合っているスライドを、あとの1～4の中から1つ選び、その番号を答えなさい。

【説明原稿】

Hello, everyone. I want to talk about my country. New Zealand is a small country. Now it's summer in Japan, but it's winter in New Zealand. It's cold. The mountains, sea, lakes and sky are beautiful in New Zealand. In the summer, you can enjoy camping, fishing, and climbing mountains. You can see sheep and kiwis in New Zealand. Kiwis are birds. They are brown and round*. You can also see a lot of beautiful fish in the sea. The most* popular sport in New Zealand is rugby. New Zealand is famous for* the All Blacks team. Do you know the haka dance? The All Blacks dance a haka dance before they play rugby. It's very cool. Cricket* is a popular sport, too. We play it with a ball and a bat like baseball. We often see cricket players in the park. Please come to my country someday. Thank you.

round* 丸い most* 最も is famous for* 有名である cricket* クリケット

【スライド】

1	<p>New Zealand</p> <p>(1) Seasons (2) Nature (3) Animals (4) Sports</p>	2	<p>New Zealand</p> <p>(1) Seasons (2) Nature (3) Foods (4) Dance</p>
3	<p>New Zealand</p> <p>(1) Seasons (2) Sports in summer (3) Animals (4) Sports</p>	4	<p>New Zealand</p> <p>(1) Seasons (2) Sports in summer (3) Foods (4) Dance</p>

1	35.3%	(正答)
2	13.6%	
3	30.8%	
4	19.0%	

イ 考察

3を選択した生徒が多かった要因の1つとして、2段落目の内容を正しく読み取ることができなかったことが考えられます。

説明文やエッセイ、物語など、まとまりのある文章のあらすじを読み取る際には、文章全体を通して、段落相互の関係を考えながら読むことが大切です。指導に当たっては、読みやすい部分を手掛かりにしながら、読みづらい部分についても、推測して読み進めていくよう指導しましょう。また、文章を読むことに慣れさせるためには、教科書や他の題材を数多く読ませることが大切です。

2, 3年生での具体的な指導としては、以下のような活動が考えられます。

- ・文章全体や段落ごとにタイトルをつける活動
- ・話の内容を数文の英語でまとめる活動
- ・説明文を読み、手順などを整理する活動
- ・物語を読み、起きた出来事を順に整理する活動

【令和元年度全国学力・学習状況調査報告書より】

○場面に応じた英文を書くことができる

ア 問題の概要

15 来月、ゆき (Yuki) の中学校にアメリカの中学生が来ることになり、留学生のために自己紹介カードを作成することになりました。次のメモを用いて、ゆきになったつもりで(1)～(3)について自己紹介文を書きなさい。

Name (Yuki)

(1) 住んでいるところ	Miyako
(2) 好きな教科	math
(3) できないこと/苦手なこと	basketball



(1)正答率 26.7%	無解答率 7.4%
(2)正答率 52.0%	無解答率 8.8%
(3)正答率 32.8%	無解答率 7.6%

イ 考察

無解答率は低く、英文を書こうとする意欲は見られる一方、正確さについては昨年度から課題が継続しています。特に（3）については、I can't basketball. など、一般動詞が欠落した解答が多く見られました。言語材料の定着を図るために、以下の点に留意しましょう。

- ・ 文法事項の規則性や構造などに気付くことができるように、生徒とのやり取りを行い豊富な例文に触れさせた上で発話内容を視覚化したり、学習の振り返りを行ったりすること。
- ・ 例文を提示する際は、生徒自身との関連性を感じることができるような意味内容のある例文を示すこと。

【令和元年度全国学力・学習状況調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に関する指導資料】

3 実践事例

一歩踏み込んだ小中連携

北上市立黒沢尻北小学校、北上市立上野中学校

黒沢尻北小学校は、校種を超えて学びをつなぐ工夫として、中学校入学後に自己紹介場面を設定してもらい、小学校の最終単元で「中学校の先生への自己紹介」に取り組みました。間もなく迎えるこのリアルでワクワクした場面は、児童にとって小学校での学びを発揮する絶好の機会でもあり、英語学習への強い動機付けとなっています。

また、受け入れる側の上野中学校にとっても、生徒の頑張りを認めたり価値付けたりするなど、授業開きがこれからの学習に希望を持たせる場面となり、1年の良いスタートとなっているようです。更に、市の共有システム（google クラスルーム）を用いての動画共有により、教師が生徒のレディネスを把握し、先回りして授業づくりに生かしている点も素晴らしいです。両校の取組をヒントに、各小・中学校区でも気軽に連絡をとりあい、アイデアを出し合いながら、もう一歩踏み込んだ小中連携を目指しましょう。

《中学校の先生に自己紹介をすることができる》

【小学校6年】

3月
準備・練習

入学

【中学校1年】

4月
自己紹介

児童（生徒）を言語活動でつなぐ

R2.3 . . . 中学校で実際に発表

R4 . . . 動画を作成し、中学校へ引継ぎ

小学校の声（小田島 希枝 先生） 小学校専科

私自身の中学校での指導経験から、中学校で初回の英語の授業では、きっと英語で自己紹介をするだろうと考えました。そこでこの単元構想をお話したところ、中学校の先生にご快諾をいただき、実現させることができました。上野中学校へは原則本校のみが進学します。そこで、発表の相手はあえてクラスメイトではなく、中学校の先生としました。児童は自分のことをよく知ってもらうために、これまでに学習した表現の中から伝えたい表現を選び、自分で内容を考えていました。「中学校の先生を驚かせたい」という気持ちがモチベーションになっていたようです。この活動を行うことで、自信をもって中学校に進学し、中学校生活のよいスタートが切れることを願っています。

中学校の声（杉澤 幸恵 先生）

北上市で一人一台端末が導入されてから、スピーキング活動の一つとして google クラスルームを使って生徒に動画を提出させる取り組みを行ってきました。小中引継ぎの際、小学校の先生から生徒たちが中学校入学に向けて自己紹介の動画を作成したと聞き、データ共有させてもらい、入学前に視聴しました。生徒理解に加えて、外国語学習の様子を事前に知り、意欲的に自己紹介に取り組む生徒たちを見た上で授業開きをすることができました。生徒は小学校で作成した自己紹介の原稿をもとにしながら、さらに Picture Dictionary を使ったり、教師に質問するなどしながら、プラスαで自分自身を紹介しようとさらに広がりのある活動に取り組んでいました。「自分が伝えたいこと」をもっと英語で表現しようと生き生きと活動する様子が見られました。